



青き楓

島高だより
平成20年度2月号

(通巻第35号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長室から

「61回生ありがとう！ 1・2年生、頼むよ」

校長 辰田幸敏



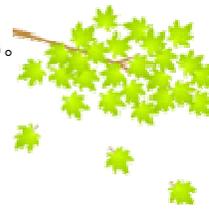
この1年間、島高の主演として様々なドラマを演じてくれた第61回生が、いよいよ3月1日本校を旅立つ。入学式、歓迎遠足、生徒総会、県高総体、雲仙学習合宿、体育祭などいろいろな場面で、私は君たちから多くの喜びと感動を与えてもらった。ありがとう！！第61回生、君たちに感謝しているよ。

1・2年生、さあー、今度は君たちの出番だ。君たちが島高劇場の主演である。学校創立108年目の新たな歴史を創ってくれた先輩たちの精神を受け継ぎ、『輝け★21世紀の旗手・青き楓たち』のスローガンのもと、大きく飛ばたいてほしい。

生徒・保護者・教職員・地域等が一体となって、卒業生も他に自慢できる、誇りに思える島高づくりをさらに進めたい。

高村光太郎の『道程』の中から「牛」という詩を、饒と激励を込めて贈りたい。

牛は急ぐことをしない／牛は力いっぱい地面に頼っていく
自分をのせている自然の力を／信じ切っていく
ひと足ひと足／牛は自分の道を味わっていく
ふみ出す足は必然だ／うわの空のことではない



3月の主な行事予定

- 1日(日) 第61回卒業証書授与式
- 2日(月) 代休(3/1)
- 3日(火) 早朝補習再開(1・2年生)
- 7日(土)～8日(日) 2年進研M模試
- 9日(月) 高校入試会場設営
(補習・1校時のみ授業)
- 10日(火)～12日(木) 自宅学習
- 16日(月) スポーツテスト(2年)
- 17日(火) スポーツテスト(1年)
- 24日(火) 終業式・離任式
- 25日(水)～26日(木) 登校自学

県高P連主催 広報紙コンクール

島高PTA新聞 最優秀賞

祝

(古城の森)



島原半島高校生卒業記念育樹・植樹

【日時】2月13日(金) 10:00～11:30

【場所】干本木1号砂防堰堤

【参加者】島原ボランティア協議会「雲仙百年の森づくりの会」の方々、島原半島9校の高校3年生約610名(島高生約50名)と教職員

【作業状況】10年前に植樹した樹木(4～5m以上に大きく育っている)にからみつけたカズラや下草を取り除く作業を行い、約300mの堰堤に植樹された樹木が生き活きとした姿を取り戻しました。当日は、今にも雨が降り出しそうな曇天で、しかも春一番の突風が吹き荒れる中でしたが、作業をした高校生の顔もすっきりと爽やかでした。

育樹作業

【生徒感想】3年生(女子)



今回の育樹・植樹では、島高生は過去に先輩方が植樹した木々の手入れ(育樹)を行いました。地球温暖化が問題視されている現代、植樹を行うことは二酸化炭素の削減にもつながり、地球温暖化防止にも微力ながら協力できたと思います。また、島原がジオパークに認定されたことにより自然環境に対する意識も高まってきています。今回で11回目を迎えた植樹祭も、今後、何十年と受け継いでいかれ、やがて成長した雲仙の森を見上げてみたいものです。

第1回 まゆやまロード健脚大会

体育科 山口 勇

心身の強化と郷土愛を育む

団体優勝 1年2組

準優勝 2年4組



第1回まゆやまロード健脚大会が1月28日(水)に開催されました。この大会は生徒の全身持久力の発達や精神面での強化を図るとともに郷土の自然に親しむことで郷土愛を育てることを目的に今年新たに企画しました。島原高校からまゆやまロード、殿様道路を経由し学校に戻る約19kmのコースを設定し、各学級4～7名の班を7班編制し班毎に協力しながらゴールを目指す学校行事です。当日は春を思わせるような快晴に恵まれ、インフルエンザなどの流行もなく大会を迎えることができました。

結果的には全班が制限時間内にゴールし、大きな事故や怪我もなく無事に終了することができました。また、ゴールの後には保護者の皆様が前日から準備して下さった心温まる『ぜんざい』をいただき、ゴールの喜びをより一層味わうことができました。この日は少しでもタイムを縮めようと協力しながら必死に走る生徒たち、運営面でゴールや記録集計の協力してくれた3年生、チェックポイントでの給水・ぜんざい作り・一緒にコースを歩かれた保護者の方々など多くの支援をいただくことができ、改めて島原高校、島高生の素晴らしさを再確認することができました。



懸命に歩く生徒達

【生徒の感想】男子優勝 2年7組1班

初めての健脚大会ということで、楽しみであった反面、ゴールまで辿り着くことができるか不安だった。一人では途中で諦めていたかもしれないが、班の皆で励まし合いながらやり抜くことが出来た。

また、お天気にも恵まれ、自然の美しさを肌で感じ、島原の良さを改めて実感することも出来た。

ゴールした後のぜんざいは格別だった。保護者の皆さん、朝早くからのぜんざいの準備や温かい声援を送っていただき、本当にありがとうございました。



束の間の昼食休憩

【保護者の声】

PTA副会長 野口 優子

参加した1・2年生はもとより、先生、保護者もその健脚ぶりを披露するところとなり、生徒に負けじと思わず走り出す保護者の姿も見られた。生徒はグループで互いを気遣いながらゴールを目指し、



ぜんざい作り

ガクガク震える膝や腰の痛みも仲間とゴールできたことで満面の笑みにかわっていた。また、PTAが前日から準備して作ったぜんざいを美味しく食べる姿は、そこに関わった全ての人達へのご褒美のようにも思えた。生徒の頑張り、笑顔を身近に感じて応援できたことに感謝します。



感激のゴール

保育園訪問実習

家庭科 尾崎郁子

家庭クラブ活動の一環として、12月25日(木)に保育園訪問実習を実施し、1年生の希望者43名が参加しました。わかさ園保育所の園長先生が、「こどもはケガをしながら成長する。怖がらず、何でもやらせてみるのが大事だ。」と、実習前に生徒達に教育方針を話してくださいました。園長先生の言葉通り、園児達は、素足でかけまわり、とても元気で、表情も生き生きとしていて笑顔が輝いていました。今回の実習を通して、生徒達は実際の体験をもとに子育ての楽しさや難しさを感じとることができたようです。

アンパンマン



1年生全員で制作した園児へのプレゼント

開くと?



中から飛び出すカード

ビックリ!



食事のお世話



読み聞かせ

【生徒の感想】

- ・楽しそうだなと思って参加したけれど、予想以上に大変なので驚きました。子どもたちは私たちに以上に個性豊かで、いろんな子がいて、その日の体調や気分でもまた変わってきます。先生方は一人一人の様子に気を配り、お世話をされていてすごいなと思いました。
- ・アンパンマンのメタルとクッキーをあけると、みんなアンパンマンが大好きみたいで、先生が「もうなおそうねー。」って、カバンになおしてあげようとするので泣いちゃう子がいっぱいいました。作ってあげた方としてはとても嬉しかったです。

主な部活動実績

○剣道部

第31回長崎県下女子剣道大会(1/25)
 高校生個人の部 **優勝** 小森田 渚 第2位 平石ゆいこ 第3位 岩本 礼可
 平成20年度第25回九州高等学校選抜剣道大会(2/15)
 男子個人 **優勝** 大坪 学嗣 女子個人 第2位 小森田 渚
平成20年度長崎県高等学校体育連盟表彰
 団体 男子・女子 個人 小森田 渚

○レスリング部

平成20年度第44回全九州高等学校レスリング新人選手権大会(2/15)
 学校対抗戦 第3位
 個人対抗戦 **優勝** 74kg級 村上 貴之 **優勝** 96kg級 馬場 貴大
 第3位 66kg級 松本 喜朗 第5位 55kg級 伊藤 駿
 第5位 50kg級 吉田 拓郎

○美術部

第52回西日本読書感想画コンクール長崎県予選(12/1)
 優良賞 稲田 真也 亀本すみれ 佳作 大場 鈴己 永田ちひろ 山口 沙織

○その他

第54回青少年読書感想文長崎県コンクール(1/8)
 自由読書の部 優良賞 北島 靖佳
 平成20年度第28回全国高校生体験記コンクール(1/26)
 優良賞 末吉 友紀穂 入選 小松 智美



理数科の活動

サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

理数科2年第1回サイエンスパートナーシッププログラムが実施されました。(11/17)
 実施内容は、九州大学地震火山観測センター所長の清水洋先生による雲仙普賢岳をとおして火山の噴火と周辺環境の変化について学ぶものです。普賢岳噴火時の命がけで撮影された貴重な火口付近の映像等に接することができました。生徒達も眼を輝かせて、様々な観測機器や観測方法にも興味をふくらませていました。以下にいくつかの感想を紹介したいと思います。

【生徒の感想】

- ・噴火時の動画があったが、命がけで映像をおさめようという姿勢に感動した。研究のおもしろさや、やりがいは、これまで私が思っていたよりあるような感じがした。
- ・今日の講演で、地震や火山について、地元と関連深く学べた。そして研究者というものについても少し知ることができた。研究者の存在が身近に感じられた。



雲仙普賢岳

理数科2年第2回サイエンスパートナーシッププログラムが実施されました。(2/5)

今回は、九州大学地震火山観測センターにおじゃまして、地震計の仕組みを学び、実際に地震波を発生させ、地震波の速度と距離から、震源を推定する実習をご指導していただきました。この実習は、九大地震火山観測センター所長の清水洋先生をはじめ、センターの多くの職員や大学院生のご協力により実現したものです。生徒達の感想をいくつか紹介したいと思います。

【生徒の感想】

- ・始めに地震計について学びましたが、かなりその構造はシンプルでももりがつけられているだけというものでした。その揺れを記録するために地場の変化を利用していました。理科の授業で習ったことが利用されているのを見て嬉しくなりました。正しい地震の波をみるために機械の間に抵抗を挟み電流が流れるようにし、地震計の無駄な揺れを抑えるところは感動しました。ほんの少しの工夫で正確な記録が取れるか取れないかが、決まることを実際に見て、多くの発明は小さなひらめきや発見が大きなことにつながることを実感しました。
- ・振動を起こす方法として、ハンマーで力強く地面をたたき手段を用いた。本当にこれぐらいの力で数メートル離れた地震計に波が伝わるのか不思議に思ったが、確かに時間がずれて、それぞれの地震計に、しっかりと伝わっているとデータで確認したときは驚いた。
- ・実際に外に出て地震波を測定した。初めて見る測定機器に興味をわき、見入ってしまった。
- ・数学や物理の知識がでてきて、いろんな教科がいろんなところで必要になってくるんだと思った。
- ・印象に残ったのは地震計の感度の良さです。本当に小さな揺れさえ見逃さず、ネズミが動いたぐらいでも反応すると聴き驚きました。地震計の仕組みを学ぶ



<平成20年度優秀卒業生徒として長崎県教育委員会教育長表彰>

3年7組 高橋 茜

在学中よく努力し、他の模範となる優れた成果を収めたことにより表彰されます。